

本書の読み方

- 本書はやや厚いですが、それは丁寧に説明しているためです。ですから、斜め読みをしないできちんと読めば、スムーズに理解できると思います。
- ♠ の付いた項目はやや難しいので、初めて熱力学を学ぶ人は読む必要はありません。興味がある場合は、いったん読了してから戻って読んでください。物理学科の4年生ぐらいまでに習う知識を前提にしている項目も含まれるので、1～2年生の段階では分からなくても気にしなくていいです。
- ♠♠ の付いた項目は、さらに難しいか、詳細な議論です。特に興味があるか、研究に役立てたい読者向けの内容です。
- 脚注は、本文を読んでいて疑問がわからない限り、初学者は読む必要はありません。脚注とはそういうものです。
- 本書の練習問題を全て解き終えた人は、市販の演習書を買う前に、本書の内容を手で隠して、その内容を自分で反復できるかどうかテストしてください。これは、決して暗記せよという意味ではありません。むしろそれとは正反対で、自分で論理を組み立てられるようになれ、ということです。具体的には、本書の記述のとおりでなくて良いから、それと内容的に同じ事を、自分自身の頭で論じられるかどうかをテストするわけです。これは、熱力学とか量子論のようなとっつきにくい学問を修得するための最も効果的な勉強法です。
- それでも時間が余って仕方がない人は、市販の演習書（例えば参考文献 [5]）の問題を解くのもいいでしょう。しかし、上記を怠っていきなり演習書に手を出すのは、最悪です。
- 用語や記号は本によって違うのが常識ですから、1.4 節に目を通してから読むことを勧めます。